



ハートタウン メッセージ

みんなの「絆」を 大切にする まちづくり

松阪市長

山中光茂



明るい青葉の輝きが目を眩ませるような季節になりました。梅雨空のじめじめした時も青葉のように明るく爽やかな気持ちを持って、みんなが心を通わせあえる日々を送りたいですね。

さて、4月、5月は、多くの住民協議会の集まりに出席させていただきました。「現場」と地域の思いを感じることでできました。これからの松阪市の大きな「基軸」は「地域」です。現場の住民が役割と責任を果たし、次の世代に当たり前の幸せと地域の素晴らしさを引き継いでいくことが大切だと思います。行政も、地域も、ボランティア団体も、障がいのある方々も、子どもたちも、高齢者の皆さんも、それぞれに幸せを感じられる社会にするためには、日々の暮らしの中で、みんなが「絆」を築きあげていかなければならないと思います。市役所でも、それぞれの部署が責任を持って様々な課題に取り組み、皆さんとともに地域の「絆」

くり「汗を流していくつもりです。ところで、「絆」といえば、歴史的な「ご縁」が現在の「絆」に繋がっているものがあります。4月末に鳥根県浜田市の浜っ子まつりに参加し、石見浜田藩の初代藩主・古田重治公として馬に乗り大名行列の先頭を歩きました。松阪市と浜田市は、古田重治公が、当時、松阪から浜田に移封されたという「ご縁」そして、本居宣長が石見浜田藩主の松平康定公から駅鈴をもらったという「ご縁」があります。その「ご縁」が今の緊密な交流につながり、今年中には、浜田市と友好協定を結ぶ計画もしています。

私たちの日々の幸せは「ご縁」や「絆」で培われ、その素敵な「絆」によって、まちも人も温かい気持ちに つつまれるようになるように思っています。地域のなかでも、地域を越えても、それぞれの「ご縁」や「絆」を大切にする幸せな松阪市がこれからも続きますように。

公共施設の老朽化対策に対する 税負担を次世代に先送りしないために…



公共施設マネジメント推進室
尼子 宗成

公共施設の老朽化問題への対応が全国の地方自治体で大きな課題となっています。松阪市も例外ではなく、現在、市が維持管理している公共施設約640のうち、多くは昭和40年～50年代に集中して建てられ、7割以上が築20年以上を経過しています。

施設は人間の身体と同じで、必要な時期に適切な修繕や改修を行わないとどんどん状態が悪くなり、かえって多額の費用が必要となります。

しかし、市政を運営するために国から交付される普通交付税は年々減少する一方で、少子高齢化などにより、福祉や医療、介護などにかかる経費は年々増加する傾向にあります。今後、市の財政運営は極めて厳しくなることが予想され、今あるすべての公共施設を維持管理していくための財源が確保できないという危機的な状況に立たされています。

基本的に公共施設を維持管理して

いくための経費は、皆さんの税金や施設の使用料収入などで賄われています。市では税金を無駄に使うことなく、サービスの質を保ったまま、最少の経費で効率的な施設経営を行えるよう、最適な施設の管理運営(公共施設マネジメント)を行うとともに、施設使用料の見直しに取り組んでいます。

広報まつさかの7月号では、松阪市の公共施設の現状と課題について明らかにし、今後の公共施設マネジメントの取り組みについて説明します。

詳しくは、公共施設マネジメント推進室(☎53-4103)へ問い合わせてください。

市政への ご意見・ご要望は 市民の声へ

- 窓口または手紙
〒515-8515 殿町1340番地1
松阪市役所 情報企画課「市民の声」係
- 電話またはFAX
☎53-4311 FAX 22-1119
※「市民の声」掲示板(柱を利用)を本庁へ設置。
- 電子メール
市ホームページ「市民の声」を
利用していただくか、
shiminmail@city.matsusaka.mie.jp

なお、意見等をお寄せいただく際は、名前や連絡先をお知らせください。連絡先がない場合は、回答いたしかねます。